市民も駆けつけシンポ

九州大学

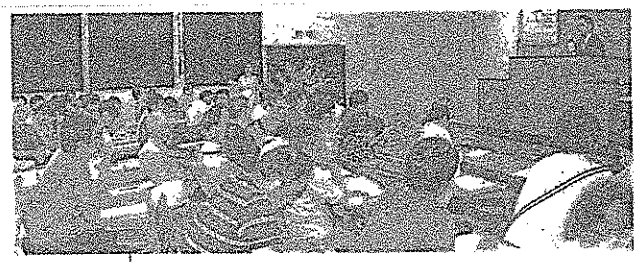
九州大学の教員有志13人が呼びかけた緊急シンポジウム「違憲『安保法案』とアカデミア」が7月30日、福岡市東区の九州大学箱崎キャンパスで開かれました。

シンポは、教員有志が「憲法を改正しないで国の重要な方針転換を行うことは立憲主義の否定につながる」（趣意書）との一致点で呼びかけたもの。日本科学者会議福岡支部も共催。会場は学生や市民の300人が駆けつけて満席になりました。

同大学法学研究院の南野森（しげる）教授が講演し、憲法学者の9割が法案は違憲としているとして安倍政権を批判。「『安保法案』は後方支援＝兵站（へいたん）活動に歯止めがかからない。憲法を変えないままで可決することは阻止しないと将来に禍根を残す」と訴えました。

9人から「アメリカから軍事的な要請があった場合、日本政府は断ることができるものはあるのか」などの意見がだされ、南野氏を交え討論しました。

同大大学院の女子院生（23）は「安保法案を可決することはよくない。法案反対の声をあげている人はすごいなと思う」と語りました。



南野森教授（右端）の講演を熱心に聞く学生ら＝7月30日、福岡市

教員・学生ら次々訴え

信州大学

長野県松本市で7月30日夜、「安全保障関連法案の撤回を求める信州大学人の会」が第1回シンポジウムを開き、教職員や学生、市民ら約130人が参加し、「撤回・廃案へ、考え行動を」と発言が続きました。

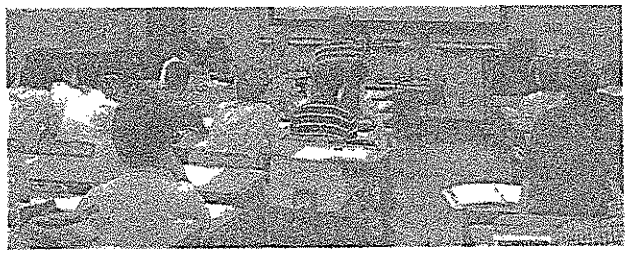
憲法学、歴史学、社会学（世論調査）の角度から、信州大学の教員が会場の質問にも答えて解明しました。

成沢孝人氏は、集団的自衛権を容認する法案の違憲性について展開し、戦争責任に言及しながら、「歴史の検証にたえない戦争に、参加・協力させられることになる」と強調、辻竜平氏は、「民意にそむき、数の論理に任せて法案を成立させることは適切でない」と語りました。

福島県出身の学生や医学生らも次々に立ち、「戦争しない国であり続けるため、戦争につながる芽を摘んでいきたい。人の命と人権にかかわる医学生として、平和を守るために行動していく」「祖母は9歳で沖縄地上戦を経験した。アメリカの戦争に協力すれば、医療者も戦場に行く。無にする危険性を明らかにしました。大串潤児氏は、戦争責任に言及しながら、「歴史の検証にたえない戦争に、参加・協力させられることになる」と強調、辻竜平氏は、「民意にそむき、数の論理に任せて法案を成立させることは適切でない」と語りました。

福島県出身の学生や医学生らも次々に立ち、「戦争しない国であり続けるため、戦争につながる芽を摘んでいきたい。人の命と人権にかかわる医学生として、平和を守るために行動していく」「祖母は9歳で沖縄地上戦を経験した。アメリカの戦争に協力すれば、医療者も戦場に行く。対に廃案にさせる」と発言しました。

会は7月15日に信州大学、長野大学の教員で発足し、賛同者は現在58人。2回目は9月1日の予定です。



参加者からも活発な発言が相次いだシンポジウム＝7月30日、長野県松本

当者の発言についても、一部の言動をとらえて不法行為の成否を判断すべきではない、などと判断しました。

東京都内での会見で笹山尚人弁護士は「労働者の雇用の安定をはかるという労働契約法の趣旨に真っ向から反する不当判決だ。被告による組織的で脱法的な雇い止めを容認し、原告の権利を踏みにじるものだ」と怒りをあらわにしました。

原告は「アルバイトには何の権利もない、人間として保護する必要などないと考えているのかと思うと、とても悔しい。不安定な立場で働く多くの人たちのためにも、できるだけのことをしたい」と、引き続きたたかう決意をのべました。

8/1 赤旗